

○鹿児島が産んだ美人画の巨匠 橋口五葉
ファイスル7本4回に分けて送ります。 西山プレゼント
月末最終送付 …PDF4部を送付添付資料として送ります。

○6月29日

『人吉小旅行打合せ会について…』

打ち合わせ会を4日(土)の朝11時から森くん宅にて開きたいと思います。

よろしくお願ひ申し上げます。昼食は出前をお願いしましょう🍵

--○2, 3年前拙宅で提供したソーメン流しをまたやりましょう。出前の寿司弁当付きで。会費800円でどうでしょう。

○七月4日 お邪魔します。以前おご馳走になりました…懐かしいです。そうめん流しき機健在ですか👉
千尋会で沢山お素麺買ったので持ってきます。たのしみにお伺ひします。

永野和枝

○6月29日 中間コメント

同行者各位

資料3点作成しましたので、別添にて送ります。マップの難 ご容赦ください。

日程、行程等を相談無く作りましたので、内容チェック方を宜しくお願ひします。 中間

○大石コメント

森・隈元・永野各氏へ。

中間氏からのご丁寧な提案に感謝です。

せっかくの中間プランを忖度して、今回は都城
(庄内の乱)や飢肥方面(森カーで行く)はやめにしてJRを利用した佐土原・西都原(日向巡り)をしましょうか?

そっち方面はぼくはよく知らないので隈元くん
何処か行った方がいい史跡があれば教えてください。

一ヶ所くらい注文があった方が親切かもしれません。

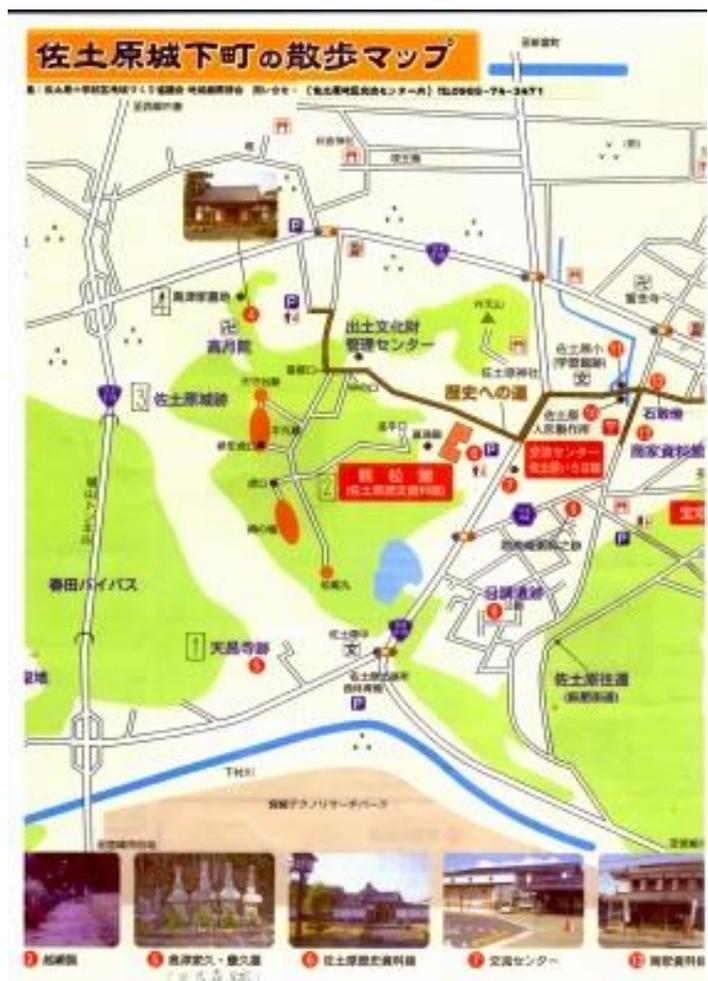
…森くん!いろいろありがとう

島津四兄弟史跡巡り第三弾(日向巡り)は2部に分けたらと思っています。第十弾くらいまで(関ヶ原)2.3年かかりで巡れたらと思うことです。健康次第ですけどね。

○30日森コメント

実施日は7月11日でしょうか?

○6月30日 『日向小旅行』について……



向国史跡巡り概略行程（案）

2020-6-29

1日目：史跡巡り（佐土原、西都原）… 別添マップ参照（ 1 2 3 4 5 ）	
[*の資料館閉館を考慮して「土曜日」実施が良です]	
行程	鹿児島組は、鹿児島～宮崎のJR利用、午前中に宮崎到着。駅で中間車に乗り換える。 佐土原城下町、西都原へ（天昌寺跡→佐土原歴史資料館* <鶴松館>→佐土原城跡→島津家菩提寺他巡り→西都原古墳群→西都原考古博物館） 注）、*の開館は、土、日、祭で月～金は閉館 一通りの巡りが終わったら、一路宮崎駅前、東口のリッチモンドホテルへ ホテルは、ツイン2、シングル1で予約（7/11か7/18の<土>一泊で如何ですか） 部屋代は、一人朝食付きで ¥7500円ぐらい（各自支払い） 夕食は、駅西口の「八九」を予定、ホテルへ戻って歓談、宿泊
2日目：観光（青島）	
行程	ホテルを発って青島へ（神社、鬼の洗濯岩等散策） 一通り観光が終わったら、一路中間の拙宅へ立ち寄り一服し宮崎駅へ 鹿児島組は、JR利用で宮崎～鹿児島へ、夕刻前に鹿児島着

=天昌寺=

国指定「佐土原城跡」の南麓にある天昌寺跡に島津家久の一族「前島津墓地」と呼ばれる石塔群4基、家久、豊久、家久の母と妻の菩提寺遺跡。（天昌寺は、明治の初めに廃仏毀釈により廃寺となった）

=佐土原歴史資料館=

鶴松館、出土文化財管理センター、商家資料館旧阪本家の3施設から成る資料館で、鶴松館は、江戸時代に佐土原島津氏の居城であった佐土原城二の丸居館の一部を復元したもの。大広間、書院、数寄屋があり、掛け軸や屏風、刀剣など佐土原島津家に伝わる調度品を公開している。

隣接する佐土原出土文化財管理センターでは、旧佐土原町域の出土遺物や民俗資料を展示。商家資料館旧阪本家は、江戸時代からみそ、しょう油の醸造販売を営んだ商家の建物で、明治期に建築された。机や銭箱などを配した帳場の様子や、当時の商いに関する資料が見学できる。

=佐土原城跡=

自然の地形を利用した中世の山城、佐土原城の城跡。南九州では例を見ない天守台跡の一部が残り、城跡をもとに復元した上述歴史資料館がある。国史跡指定。

=島津家菩提寺（大池山西連寺高月院=）

慶長年代建立の浄土宗寺院で、佐土原初代藩主以久公を始めとする歴代島津家の墓地。

=西都原考古博物館=

特別史跡西都原古墳群は、宮崎県のほぼ中央、一ツ瀬川の右岸、西都市街地の西の通称「西都原台地」とその周辺の間台地や沖積地にあり、その範囲は南北4.2km・東西2.6kmに及んでいて、指定面積は58haを超える。西都原古墳群は、3世紀末から7世紀にかけて築造され、その数は、陵墓参考地の男狭穂塚・女狭穂塚を加えた

319 基である（内訳は、前方後円墳 31 基、方墳 2 基、円墳 286 基）。古墳の分布と築造年代等により 10～13 の小群に分けられる。また、古墳群には、墳丘をもつ古墳に加えて、南九州に特有の地下式横穴墓や全国に広く分布する横穴墓が混在する。

○中間氏からは、7 月 18 日（土）、19 日（日）の提案です。

ただ、今日のような雨はいつまでもは続かないのでしょうか、こんな大雨をみると、やはり梅雨明けがいいのかなあと思いますが…。

日程については、彼は「佐土原歴史資料館」が土・日・祝日しか開館しないので土・日を提案してきていますが、それにこだわらなければもっと幅広の日程は選択できます。

大石くん提案の追加訪問史跡の一つの提案ですが、昨今の古代史に鑑み「日向国府跡」「日向国分寺跡」などはどうでしょう。

西都原古墳のすぐ近くにあるようです。クマモト

○永野和枝コメント

基礎疾患があるため、1 ヶ月一回の定期検診の日でした。

待合室で、歴史の予習しかたでした。大石さんの方は検査結果、どうでしたか？

今度は、日向方面人吉やら関連性があるようで、広くすることができることに感謝しています。

中間さん、初対面です。今ラインで御挨拶した方が良かったかもね？思いつつ足踏みしています。ご親切に私まで、大石さんたちのおかでなまえをだしていただき、恐縮しています。どうしたらいいかね!?

○今日は南郷くん（狭窄症）も一緒に行きました。二人とも大したこともありませんでした。帰りに近くの森宅に寄って来ました。大石

○森コメント

7 月 18 日～19 日日向旅行だと 20 日から人吉旅行なのでちょっと日程的に厳しいのではないのでしょうか。

○大石アンサー

（日向巡り）は 8 月です。もしくは 9 月でも。

僕は中間氏提案の日程をうっかりしていました。隈元くんの方から返事してください。まず人吉が先になるので日向は 8 月に回したいと。

まず、中間氏に 7 月は梅雨明け 20 日から『肥後（人吉）の旅』が決まったので『日向の旅』はそのあとに延ばしたい。日程は 8 月か 9 月になりそうですが日時は 7 月に入ってから決めたい…ことを伝えてください。

上でどうでしょうか。出来たら 8 月早めでもいいのかも。今度は隈元くんの都合によりますね。

又、上以外にいい案があったら検討しましょう。4 日に。

--

○私は今回 10 月の国勢調査の調査員に推薦されてそれを引き受けましたので、8 月から講習会や事前準備のため 10 月までの日程がはっきりしません。7 月中には市役所から連絡があるはずなので、8 月の予定が立たない状況です。

で、中間氏に延期のお願いはできても、実行予定月の連絡はできない状況です。クマモト

○中間氏の提案をめぐって、私が勝手に解釈し、混乱が生じてしまったようですね。ゴメン！

大石くんから中間氏提案「7月18、19日、宮崎・佐土原・西都原」を受け入れようと言ってきたときは、20日の今回計画していた人吉・えびの旅行は延期にしてとりあえず中間案から先にしようとするものと解釈し、追加史跡などを考えていました。20日人吉・えびのは予定通りとして、中間案についてはいずれということにしましょうか。

皆さんのご意見を聞かせてください。(今更と思われるかもしれませんが、中間氏に連絡をいれないといけないので) クマモト

○森アンサー

とりあえず中間君には延期の連絡をしていただいて国勢調査員の講習会の日程が決まってから宮崎旅行の日程を決めてもいいのではないのでしょうか。

それとも宮崎行を先に実行して人吉を8月以降に伸ばすという手もありますよね。

○6月30日に隈元さんとナカマ君との間で交わされたメール交信の内容は以下の通りです。大石転記

隈元様

肥後(人吉)への歴訪 好天候でご無事をと念じております。

日向路のプラン 内容は調整したくより良いものにしたいと思っています。

ご示唆を宜しく願います。 8月以降了解しました。

中間

From: 隈元達雄

Sent: Tuesday, June 30, 2020 3:30 PM

To: 中間 一範

Subject: お元気な様子、何よりです。

中間一範さま

八期会歴史クラブも大石くんのいつものまとめで盛況で嬉しいことです。

いつも、鹿児島勢におつきあいいただき、ありがとうございます。

さて、この度は「日向路歴史旅」の素晴らしいプランをありがとうございました。

たまたま4人組で7月20日から一泊二日で「肥後(人吉)の歴史旅」が久しぶりに行くことになっています。

そのため、日向路歴史旅は8月以降にしようかと4人で話しています。

その節はお世話かけますが、よろしく願います。

日程決まり次第、連絡差し上げます。

○ここから7月1日です。

○7月5日 これほどの被害だとまずホテルが大丈夫なのか?チェック。又、軍艦島の時(上陸不可)のように目的施設(歴史館や城跡など)が被害を受けた為閉鎖されてるケースがよくあります。

森くんすみませんが相手先に近日中に電話してみてくださいませんか?

ぼくの勘だと難しいような気がします。その場合は日向佐土原一泊帰りにえびの市なども考えられます。

その場合、車で宮崎往復になりますけどね。

他のメンバーのご意見は?

少なくとも1週間前には決めたいですね。人吉市観光案内所の連絡先添付します。

○観光協会や温泉観光協会のホームページを見ましたが、今日は昨日の今日なので、一切動きはありません。

関係者も自分の身の回りのことに精一杯でしばらくはそれどころではないのでしょうか。

2、3日経って分かってきたら再検討しましょうか。

宮崎に行く場合も大石くんの言うように是非、えびのには寄るようにしましょうか。 クマモト

○私もホテルの方へメールで水害お見舞いと状況報告のお願いを発信していますが、取り込んでいるせいはまだ回答がありません。写真で見ると市内全域水没のようなので復旧にはだいぶ時間がかかると思われますので、今回は人吉はあきらめ次回の楽しみに取っておくことにして、21日のえびの市日帰りツアーに切り替えてはどうでしょうか。宮崎はJRで行きたいのであとに伸ばしましょう。

○それはいい案ですね。

湧水町の松尾城跡(別名栗野城)などを巡ればちょうど一日コースになるのではないのでしょうか。

えびの市は、昨日お渡しした「えびの市の訪問先案」などを中心にこれから考えましょうか。 クマモト

○みなみちゃん、観てたらお返事が遅くなりました。

人吉の事です…私も森さんの案に賛成です。えびのをゆっくり、散策するのも、良いかと思えます…80歳を過ぎるとゆっくりが、良いゆっくりまわりたいです？

運転なさる方も、ゆっくり安全運転をお願いします😊

私達…毎日がビュウテフルサンデー～です。何回でも、okです

永野和枝

○

森. 隈元案 OK です。

八期プランと天災はなぜか同体のようですね。

えびので美味しいランチでもしましょう。

早めの人吉ホテルのキャンセルをお願いします。

○2020年7月5日(日) 17:57 森繁 <kojimori1226@gmail.com>:

私もホテルの方へメールで水害お見舞いと状況報告のお願いを発信していますが、取り込んでいるせいはまだ回答がありません。写真で見ると市内全域水没のようなので復旧にはだいぶ時間がかかると思われますので、今回は人吉はあきらめ次回の楽しみに取っておくことにして、21日のえびの市日帰りツアーに切り替えてはどうでしょうか。宮崎はJRで行きたいのであとに伸ばしましょう。

○7月6日 切抜2個添付します。『集成館宝の山1』『街道・出水筋の③』 大石発

○7月6日 クマモト発

有名人の通った米ノ津湊は海路の出口、入口だったとは、初めて知りました。

ここからその後に「永吉島津家」の始祖になる家久と2代目の豊久親子が龍造寺隆信と戦って隆信の首を挙げて大勝した「沖田騾の戦い」に出奔して行ったのですね。

先日来この「かごしま街道見聞記」で野間の関跡が出てきています。同じ県内にあるのに未だ未踏の地です。

20日、日帰りで「えびの市歴史探訪」を鹿児島グループで決行することになり、歴史的な場所を探していると「榎田関所跡」別名、求麻口(くまぐち)番所というのが出てきました。今度の訪問予定にある「加久藤城」の登り口にあって林の中に石垣や礎石が残っているそうで、俄然「薩摩藩の関所」に興味を持つようになりました。そこで調べてみると、「野間の関」(出水市下鯖町)、「去川の関」(宮崎市高岡町去川)、「小川内関」(伊

佐市大口)が薩摩の三大関所と言われているそうです。薩摩には九関所ありで三大関所の他に、先に紹介した「榎田関」(えびの市)、「八郎ヶ野関」(志布志)、「夏井関」(志布志)

「紙屋関」(小林市)、「日州梶山関」(宮崎県三股町)、「日州寺柱関」(宮崎県三股町)があるようです。ということで好奇心がムクムクと湧いてきました。桐野作人さんに感謝です。近くに行ったら今後寄るようにしましょう。クマモト

○紡績工場といえば、戦前、真砂本町の薩摩酒造鹿児島支店、照元寺のあたりに大きな紡績工場がありました。集成館の技術が伝承されたものであったと思います。

空襲で徹底的に破壊されました。

薩摩が近代的な先進工業都市であったことは素晴らしいことです。

「出水筋」高山彦九郎が浦町の米之津宿の間屋・源右衛門宅に泊まり、鹿児島城下に入る許可を3月5日から20日まで長々と待ち、逗留した。

その間、彦九郎は飽きることも退屈することもなかったでしょう。米が流通する河口の港は景気の良い繁華な場所である。間屋・源右衛門宅とあるが、そは如何なところか。...

=====

西山 和宏

○ 2015年の世界文化遺産登録は他の地域の大きな製鉄所や造船所に比べて地味なようですが、今日の紹介にもあるように、それらの先駆けになったのであり、改めて斉彬はじめ薩摩の先人たちは大したものだったのだと思うことです。

鹿児島の「旧集成館」「寺山炭窯跡」「関吉の疎水溝」のうち、寺山炭窯跡は台風で崩落してしまい、現在復興すべく動いているように聞いています。今日は関吉の疎水溝を紹介します。

<https://plaza.rakuten.co.jp/kumatake123/diary/201512160000/>

○間違っていました。再送です。

<https://plaza.rakuten.co.jp/kumatake123/diary/201512230000/>

○好奇心が強いだけ

あれも気になる これもほっておけない

間屋・源右衛門宅とあるが、そは如何なところか。...

ほぼ間違いなく、源右衛門が経営する女郎屋です

そこに彦九郎は、流連したのです。

それを鹿児島城下へ入る許可を待っていたとはいかなる重要な用事があったのでしょうか？

=====

西山 和宏

○ただの好奇心爆発のジージです。(爆)

西山さんこそ守備範囲が広いと我々の間で話題になっています。

クマモト

○本当に よく調べていますね

敬服で〜す

=====西山 和宏

○コロナ騒ぎについて

○鹿児島は長い間、11人が継続していましたがついに爆発、アウトブレイク

鹿児島県のPCR検査可能件数は、最新情報（といっても5月28日）によると127人。

枕崎市小原病院は120人以上を検査して陰性とのこと。

PCR検査可能件数が増加しているようです。

情報開示がお粗末なのか、現状把握が杜撰なのか？

どの偉いさんも、新型コロナ対策の決め手は「不要不急の外出自粛」ということであるらしい。

鹿児島の知事選挙、興味深く見守っています。

=====西山 和宏

○大石さん

大賀ハス 開花状況 送信します。

今 蕾は あと 3個 確認されています。以上 よろしく 木場 祥雄

○ありがとうございました。

綺麗ですね。手入れがいいのでしょうか。

八期の皆さん(LINEグループ)に紹介します。

○えびの市が古墳でも歴史的にみて重要な位置づけにあるのですね。

今度の旅は、おかげでえびのを古代史の中の位置づけでみるということの重要性をこの論文から知ることができました。

調べてみると小木原古墳や島内地下式横穴墓群などは見学できそうなので、一応コースに入れておきましょうか。

「阿多隼人」から薩摩隼人への変遷も興味深いですね。

薩摩は、歴史的にみると、日向から分立したのではという中村明蔵先生の説を知って、これにも驚きです。クマモト

○7月7日 大石レポート

隈元くんと考古学（古代史）が好きそうな仲間へ

その昔、日向の一部であった我が鹿児島（薩隅）の中心地は志布志だったのには驚きました。

そしてえびの市の位置づけは有明湾から川内川を遡り陸揚げをした鉄鋼製品を陸路を日向（志布志も含め）に運ぶその中継地としての「鉄製品搬送」起点らしいことを書いていました。

古墳時代（4世紀中ごろから7世紀中ごろまで）の終わりころ（大化の改新頃）までの（80年間くらいか）の歴史上の「解かされていない空白」のことを中村明蔵さんは語っていましたね。

『隼人の乱』が起きたのが720年（今年が丁度1300年）ですからその10年後には古事記・日本書紀・万葉集と古代史の花が開いた時期でした。

やがて時代は日向（西九州）時代から巨大な大和の時代に移っていきました。中村明蔵市の『大和对隼人』の得意の研究分野ですかね。

ところで隈元くんは隼人族ってどういうイメージを持っていますか？大声で吠える野蛮人・・・貴人の見守り（ガードマン）・・・興味津々ですね。

もしかしたら彼らこそ真の日本人で、大和人たちは韓国からの渡来人たちだった・・・とか。

古事記などにある日本神話（熊野から大和へそして出雲へ）は渡来人（天皇・黄族）の作で、日向から笠沙へ向かう高千穂の峯（天の逆鉾）神話とは別。

いろいろ古代史の謎解きも面白いですね。そうそう古代と言えば卑弥呼ですが時代で言えば中国は魏の時代

（220～265年）いわゆる三国志の時代である。日本で言うと弥生時代後期から古墳時代前期へのそんな時代だったようですね。この時代の日本は九州の時代だったのでは。

そうすると、北九州説も強いけど日向（太平洋側）説もイメージとしてはないこともない（自信なさげですが）・・・久しぶりで、店に出てパソコンの前で大きなキーボードを叩いていると
思考力がキーボードから伝わって来て長文になってしまいました。

久しぶりの天文館は山形屋も3日臨時休業中で街もひっそり、店も客ナシ、九州上空を南から北、北から南と雨の帯が上下して怪しい空模様です。

そろそろ走れるうちにマイカー帰宅をと思います。「コロナが増えないことを」祈るばかりです。

〇7月9日

はじめまして。

大石慶二といいます。

小・中・高まで一緒でした。

卒業後は大学・生業（なりわい）の期間を終えて還暦の頃から又付き合い再会。

...以外20年濃密交際が続いています。

今回、「郷土史を辿る小さな旅」をスタートしたくて一回目の訪問地に人吉市えびの市を選びました。

幸い、話し合いの中で繁くんから貴兄の話題になり、出来たら「えびの市巡りは森くんにお任せ」ということになりました。秋丸様にはお忙しい中快く引き受けていただけたそうで感謝です。

〇7月17日

大石さん

こんにちは

昔の南日本の区分 地図情報 おくっていただき ありがとうございます。

興味 深く 読みました。

ありがとう。

木場 祥雄

〇以前、大石くんが送ってくれた薩摩の古地図に現在の志布志などは日向国であったことが表示されており、現在の県境とは違うものであったので驚いたことがありました。

まさに新名一仁しが書いている通りでした。その地図を今朝から見つけているのですが、どこに紛れたのか出てきません。日頃の書類の整理の悪さのせいです。

出てきたらまた添付します。

クマト

〇ニシヤマ発

日本の地名は市町村合併で大きく変わり、昔の地名は古典的なものになっています

世界では国名まで変わっています。

蛇足を1つ

南 点

歴史研究者 新名 一仁

大隅国と日向国の境界

先日、地元宮崎市の教科書展 示会に行ってきた。小中高校で本年度使われる教科書、そして来年度中学校で採用されるものが見本が並び、手に取って見ることが出来る。教科書を所蔵する図書館は少なく、同じ教科書異なる出版社の教科書を比べて読むことはなかなかできない。

私は専門分野である日本史の内容を比較するため、極力展示会に行くようにしている。そこでもいつも気になるのが、旧国境の表記である。「旧国」すなわち「令制国」とは古代律令国家が設定した地方行政区分であり、鹿児島・宮崎両県は、薩摩・大隅・日向の3カ国からなる

大隅国と日向国の境界

私は専門分野である日本史の内容を比較するため、極力展示会に行くようにしている。そこでもいつも気になるのが、旧国境の表記である。「旧国」すなわち「令制国」とは古代律令国家が設定した地方行政区分であり、鹿児島・宮崎両県は、薩摩・大隅・日向の3カ国からなる

て分かりづらくなりつつある。例えば、大隅国と薩摩国の境は現在の市町村境とは異なる。中段階、菱刈は大隅国に属したが、菱刈町と大口市が合併した今、その境界を知ることが極めて困難である。さらに困るのは日向国と大隅国の境である。展示会で確認したところ、中

度重なる市町村合併もあいまっ

しかし、旧国境は明治以来の

る。明治4（1871）年の廃藩置県後は行政区分としての意味は無くなったが、政府は19世紀末まで令制国の範囲変更を行っている。旧国名は意外と近代になっても身近なものだったのである。

学校社会科、高校日本史の教科書には必ず「旧国」を記した地図が掲載されているが、半数は日向・大隅の国境を宮崎・鹿児島両県境と一緒にしてしまっている。現在の志布志市や曾於市の一部、大崎町などは日向国諸県郡の一部であったが、明治16（1883）年に宮崎県が鹿児島県から分離された際、志布志・松山・大崎の3郷は鹿児島県に残ったのである。鹿児島県が日向国の一部を含んでいることは、ぜひ学校教育の場でも教えていただきたい。

近年、天気予報などで大隅地方というと曾於市以南の4市5町を指すのが一般的になりつつある。律令国としての「大隅」の範囲をもう一度見直してみたい。

なぜ、アメリカがアメリカと呼ばれるようになったか？

米国大陸を探検したアメリカ・ヴェスプッチの著書の付録の地図の米国大陸に、アメリカの女性形「アメリカ」と記したのが最初と言われている。

日本の倭国は、昔昔のその昔、中国を訪れたときどこの国から来たかと問われて「我が国は.」と説明したことから「倭国」になったと魏志倭人伝にあったと思う。

そのような調子のものに、フィリピンのマニラは昔昔のその昔の訪問者「ここは何処だと」と地面を指して問われたその先に、花があったので「それは花です；マニラ」と答えたという。

元禄絵図

<https://www.sci.kagoshima-u.ac.jp/oyo/advanced/geology/map.html>

○ちょっと地図は違うような気がするけど、これを見ると、新名氏の言う通り「志布志」「松山」「大崎」などは鹿児島県として残っているので、どんぴしゃりの地図のようです。

大石くんからの以前の地図で菱刈は確認していないし、この地図では菱刈は描かれていないが、大口の東側に当たるので、この地図が新名氏のいつている地割のことに間違いはないでしょう。私も印刷して保存します。ありがとう。

クマモト

○17日地図から判断して、志布志は重要な地域で

その時々、勢力の強い者が抑えていたのでしょう。 西山

○大石発

この地図では志布志は日向に。菱刈は大隈国になっています。

また西山くんの指摘するように志布志は中世はもちろん古代の頃から大陸から長島や北薩に届いた鉄や銅などを川内川を利用してえびの市を経由して東海岸の志布志湾に運んだのではとも言われています。事実志布志は西都原の次に（古墳時代の遺跡群があり確か前方後円墳の南限とか）

○菱刈の場所を私は勘違いしていました。ゴメン。 クマモト

○西都原は、行ってみたかったところです。

その付近を来るかで通ったことはありましたが仕事優先でした。

志布志も美しいところだそうですねだれしもそうであったと思います

日南を訪れたとき、宮崎なのに鹿児島弁には驚いたことがありました。 西山

○2020年7月17日(金) 16:29 隈元達雄 <takumamoto2@gmail.com>: ちょっと地図は違うような気がするけど、これを見ると、新名氏の言う通り「志布志」「松山」「大崎」などは鹿児島県として残っているので、どんぴしゃりの地図のようです。大石くんからの以前の地図で菱刈は確認していないし、この地図では菱刈は描かれていないが、大口の東側に当たるので、この地図が新名氏のいつている地割のことに間違いはないでしょう。私も印刷して保存します。ありがとう。

○18日 大石発来月か再来月宮崎に東京から移住された中間さんの案内で家久、豊久親子の居城であった佐土原をメインに古墳時代の遺跡群のある西都原も訪れます。チャンスがあったら😊西山くんも一緒出来たらいいのにね。大歓迎したいけど。

○本当に 一緒にしたいところですが. . . .

西都原、どこに対して、西の都でしょうか？

「原」は、住居が集まった町ではないという意味だと思います。

佐土原にも「原」がついています。ハラハラしています。

佐土原は島津の支藩で大したことはないといいましたが、江戸の上屋敷はかなり大きなものでした。

文化のレベルも高かったようです。

探報記を楽しみにしています。

○7月20日

三蜜を回避するためマスクを持参してください。 森発

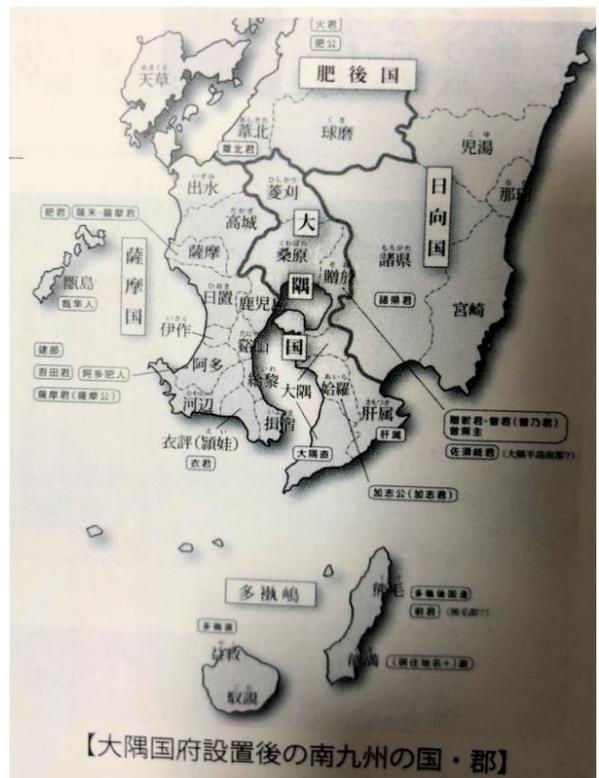
○了解しました。待ちに待った一日遠足です。

安全運転おねがいします🙏

お天気 ハラハラ きをもました♡ ドライブの日、明日実行うれしいですね。

いま 3時のおやつにとおもい、ふくれがし作っています
運転なさる方お世話になります

南国交通柿の迫でまっています。熱中症にならないように
とおもい飲み物を用意しましたそれと塩飴 永野



○やはり貴女を誘ってよかった。いろいろ気が利いて助かります。 ありがとうございます。 大石

○いよいよですね。

コロナも吹き飛ばすような歴史紀行にしたいですね。永野さんいつも用意万端お世話になります。 クマモト タツオ

上は旅の前.....下は旅の後です。

○私が一番早く、帰宅したのに、お礼が一番後になり、ごめんなさいお疲れのところ、自宅まで送っていただき、恐縮でした。風呂には入りましたら？睡魔が襲いました(連チャンで、自宅改修 今日遠足)ダレました年齢を感じました🙏携帯のベルにめがさめ...いまになりました？ 今日楽しい思い出ありがとうございました 永野和枝

○見れますか？予告編です。

今回は余りいい画像が撮れませんでした。明暗が強すぎて...

○はい、見れました。今朝早くに見ました。今 GG から帰ってもう一回見ました。

GG はホールインワン1本出たものの、最低の成績でした

。

○見れません。=====西山 和宏

○大石さん こんにちは

皆さん 元気で えびの地区 探訪 見せて 頂きました。

ありがとうございました。木場 祥雄

○ 以下、大石の facebook にアップしたもの.....

下写真は・川内川は秋丸邸横の土手から写す。

私は以前、島津義弘の特集番組を宮崎県が作った、というのを聞いて、フェイスブックに「義弘公は薩摩(鹿児島)でしょう。なぜ？鹿児島がつくらないの？」と

書いたら、ある歴史作家が「島津義弘は宮崎県のえびの(飯野城・加久藤城)に1564年から1590年まで26年間も住



んでいました」と教えてくれた。

もちろん私はそのことは知らない訳ではなかったけど何となく気になっていた。

確かに境界としてはえびの市(京町・飯野を含め)は宮崎県(むかしの日向国)ではある。今回、えびの市を訪れて秋丸さんと1日付き合ってもらった。

あれっ!と思ったのは、秋丸さんの会話というカイトネーションがわれわれと全く変わらないのだ。

秋丸さんが言われた「そうですよ、私たちは昔から薩摩圏(人)と思っていますよ、隣の小林市(宮崎)とはぜんぜん違います。」「川内川がすぐ横を流れていますから..こ

こは薩摩国と思っています」

少々、創作部分もあり、100%秋丸さんの言葉とは違うかも知れないけど大差ないやり取りだった。

僕としては宮崎県が義弘公を取り上げることに何ら異論はない、けど鹿児島も負けずに取り上げて欲しいもの、と言ったに過ぎない。

著名な歴史作家に逆らう気は全くないが自分なりに、とても納得のいった今回の小さな旅だった。 大石

○以下の画像・動画は YouTube に UP しました。

『えびの歴史探訪2020八期』の動画をユーチューブにアップしました。Facebook にも。 大石

<https://youtu.be/VgMqsG7evus>



YouTube 動画 八期えびの歴史探訪 2020 をプレビュー

○7月24日

大石くんがいつの間にか動画を写してくれていた。先日のが生々しく蘇ってきます。ありがとう。

私は、いつものことだが自分の興味にだけ熱中してマイペースでほとんど皆さんを写していない。

数年前に佐賀の「名護屋城」に行った時に、デジカメ片手に走り回る私を見て孫が「ジージは戦場カメラマンみたいだ」と言ったことがあったが、

その時の癖が治っていないなあ！ と反省。

話は変わって「松尾城（栗野城）」訪問記をブログに書きました。 クマモト

○大石くんは、8期の宝、玉龍が世に誇る宝です

もちろん みなさんも宝です。

宝は大切にしましょう。=====西山 和宏

○天候にも恵まれ 楽しい歴史探訪でよかったですね！ 西山

○今から50年前、新婚の挨拶に黒木邸を訪れた時の写真ですが同じ場所の敷石が残っていました。はるか昔の思い出です。 森



○よっ ご兩人！ と思わず言いたくなる写真です。

黒木家のこの立派な石はどこから運んでこられたのかわからないですが、

黒木家を象徴するものの一つですね。石は我々の生きるサイクルくらいでは永遠に不滅です。 クマモト

○ 秋丸信夫 発

戻り梅雨で雨続きです。えびの訪問は晴れでグッドタイミングでした。

皆さんいろいろな感想をお持ちのようで、有意義な探訪だったようです。

お役に立ててよかったです。高校の同窓生って良いですね。

私たちの高校の同窓生で人吉で今度の災害にあった女性がいます。

お見舞いの募金を企画したらたちまち 10 万円集まりました。

それにしても新婚旅行の写真若くてスタイルがいいですね。

○25日 秋丸さんには本当にお世話になりました。

見識があってあの辺りでもきつとりリーダー格だと思います。

○大石発 facebook ^

私は以前、島津義弘の特集番組を宮崎県が作った、というのを聞いて、フェイスブックに「義弘公は薩摩(鹿児島)でしょう。なぜ？鹿児島がつくらないの？」と

書いたら、ある歴史作家が「島津義弘は宮崎県のえびの(飯野城・加久藤城)に 1564 年から 1590 年まで 26 年間も住んでいました」と教えてくれた。

もちろん私はそのことは知らない訳ではなかったけど何となく気になっていた。確かに境界としてはえびの市(京町・飯野を含め)は宮崎県(むかしの日向国)ではある。今回、えびの市を訪れて秋丸さんと 1 日付き合ってもらった。

あれっ！と思ったのは、秋丸さんの会話というカインドネーションがわれわれと全く変わらないのだ。

秋丸さんが言われた「そうですよ、私たちは昔から薩摩圏(人)とっていますよ、隣の小林市(宮崎)とはぜんぜん違います。」

「川内川がすぐ横を流れていますから…ここは薩摩国とっています」

少々、創作部分もあり、100%秋丸さんの言葉とは違うかも知れないけど大差ないやり取りだった。

僕としては宮崎県が義弘公を取り上げることに何ら異論はない、けど鹿児島も負けずに取り上げて欲しいもの、と言ったに過ぎない。

著名な歴史作家に逆らう気は全くないが自分なりに、とても納得のいった今回の小さな旅だった。

○私の母もえびの市出身ですが純粋な鹿児島弁です。 森

○クマモト発

天気にも恵まれて、コロナも忘れて久々の楽しい一日でした。言葉の問題も何の心配もなく良かったですね。

ところで NHK 大河ドラマで義弘公を取り上げてくれ運動は以前にも八期歴史会で少し話題になりましたが、今回えびの市でもゆかりの地で「義弘ドラマ実現しよう」の旗をたくさん見かけました。

以前話題になった時に私は「西郷どん」が出来たばかりだからしばらくはないのでは、と書いた覚えがあります。

しかし、今回えびの市での旗をきっかけに調べてみると、「四地区義弘公大河ドラマ誘致委員会」(日置市、湧水町、えびの市、始良市)が2014年? にできて今年も5月23日に集いを開こうとしていたことを知りました。しかし、実際はコロナ禍で中止になっています。しかしこのことを見ても諦めてはいないということだと思えます。

ただ、今回加久藤城でその話題が出たとき、秋丸さんが「朝鮮の文禄の役などの問題は韓国を刺激するので、おそらく実現しないのでは」との意見があり、私も国際的な広がりのある問題だからどうなるだろうと思うことでした。

クマモト

○前にも書きましたが、日南を仕事で訪れてその訛りにアレッと親しみを感じたことがあります。

富山弁は、名詞や動詞は、鹿児島弁と異なるようですがイントネーションは鹿児島弁と同じだと感じました。

河井継之助の長岡藩の侍言葉は三河弁であったと峠を書いた司馬遼太郎が言っています。

「殿さま」ではなく「殿さん」と言うのだそうです。庶民は三河弁をしゃべりません。

戊辰の北越戦争で、当初の目論見とは異なったとしても徹底抗戦したのは三河出身ということがあるのでしよう。

長岡の庶民にとって、河井継之助たちは余所者ところから北越戦争で、庶民は、継之助たちを支援しなかったようです。

=====西山 和宏

○大石発 隈元くんへ

帰ってつらつらと思うに今回のえびの市歴史探訪ウィズ秋丸氏からはいろいろなヒントをいただきました。言われるように僕も「そうか義弘 story から朝鮮連戦は作れないよな、と思うことでした。関ヶ原原だって早い話逃走劇だものね。木崎原の戦いだって勝ったような負けたような…いろいろ難しいね。

○大石発 本当に言語はともかく抑揚(イントネーション)は日本各地、どうして似てるんだろう、と思います。へえ富山がそんなに似てますか? 考えてみれば 2.3 世紀の頃、アイヌは南九州から北征して行ったと言う説『上津文一古事記以

前の神話集』に書かれていますね。もしかしたらだと北方狩猟民族(モンゴル近く)が鹿児島弁とそっくりのイントネーションだったり…夢想するだけで楽しくなりませんか？

○本田哲郎より

隈元、大石様方、えび野地域に「探訪」されたのですね？！

良い天気恵まれたそうで、「よかこっでした！！」

あの地域では、木崎ヶ原合戦の激戦地が周辺にあり、島津義弘が居城としていた飯野城ですね？！

島津義弘を大河ドラマにとのNHKに対する「動き」は伊藤元知事時代から、おっしゃる通りの「四都市」の連名と共に、元伊藤知事本人もこれらの都市代表の人々と一緒に、NHKに陳情に行ったこともと聞いています。

「せごどん」が決定する前の頃であり、島津義弘を主題にした大河ドラマの要請は、もう5～6年前の事からであります。

当時からみれば、「篤姫」が放映された直後であり、また、鹿児島県が「大河」に取り上げられるのは、時勢として、全国の多くの「各県」から、NHKにそれぞれの所から陳情が来ていて、鹿児島県だけが、優遇できないとの理由もあり、さらに、ご指摘のごとく、当時から所謂「日韓関係の政治的悪化」(戦後処理の諸問題)が再炎している時期でもあり、遥かなる豊臣時代の「朝鮮の役」での島津義弘の「四川の戦い」[アチラでは「鬼島津」というほどに恐れられていた]などでの義弘軍の活躍があり、この戦後処理に加えて、また大河ドラマで島津義弘を扱うことは、NHKとしては、とても放映はできないとの意向が示されていました。

ちょうど、明治維新150年記念番組として、明治維新の立役者といしの「せごどん」に落ち着くことは、他県の方々も暗黙の「了解」が得られるとのことで、「せごどん」の採用となったと聞いています。

「せごどん」となった時点で、我々日置市の島津義弘やその祖父島津忠良(日新齊)や貴久、さらにその子供達の4兄弟(義久、義弘、歳久、家久)の関連の「信者達」(自分も含めて)はこの先、「自分らが存命中はおそらく島津家関連の大河ドラマは期待出来ない」と観念した次第です。

と言いますのは、各県から、1年間の毎週の放映となる「大河ドラマ」は話題性はもとより、各県の観光価値が良い結果に通じている事実があり、どこの県も、各地の傑物のドラマを仕立てて、放映するような要請・陳情がNHKに対して殺到してる状況です。

鹿児島県では「飛ぶがごとく」「篤姫」「せごどん」と続きましたので、当分は、まずは無理でしょう。

次に、島津義弘の「朝鮮の役」の後日談について「言及」します。

この「朝鮮の役」に関しては、島津忠良(日新齊)の「教え」として、島津家の歴戦の跡には「六地藏塔」を建立する事とされており。

日新齊の「教え」とは、「島津は鎌倉から三州の守護職として下向してきた立場であり、各地で地元のそれまでの「豪族」などの支配者との幾多の「戦い」を行ってきた。

それには、敵味方関係なく、多くの兵士を戦死とい追いやり、領首として三州を統一するまでになったが、貴重な兵士の命をお互いに失った。それらの御霊の例を丁重に供養する事こそ、島津家として努めなければならない、今後は、戦いの後は、その周辺に必ず「六地藏塔」を建立して、供養すべきであるとの「教え」であったのです。

この日新齊の「教え」は歴代島津家の宗本家の「家訓」とも言われるほどに「定着」しています。

この事については、第32第ご当主の島津修久(のぶひさ)様が直接「調査・研究」として発表されておられる「鹿児島史談」(平成15年12月発行、第5号)を、直接頂戴しまして、拝読させていただきました。この件に関しまして、「島津氏による「敵味方供養」ゆかりの地を訪ねて」(P8~19)に詳細に記載されています。

それによりますと、「朝鮮の役」以後、島津義弘は、帰国後の翌年には、島津日新齊の「教え」に応じて、奈良県の高野山に「朝鮮の役」の六地藏塔を建立しています。

さらに、現地の朝鮮の泗川の激戦地では島津義弘は明と朝鮮の38,000人とも言われる戦死者を治めての墳墓を作り葬儀を行ったとのこと。

さらに、太平洋戦争以前には、「唐兵塚」として「敵味方戦死者の石碑」が建立されたそうです。

島津修久様は1984年(昭和58年)と翌年(昭和60年)に2回、朝鮮の現地を訪れておられる。その時この供養塔なども参られておられるようですが、アチラでのこの「供養塔」などの扱いは、あまり良い扱いではなかったようです。

現地の識者は「敵味方の無名戦死者の御霊を祀る島津義弘親子の良識には感銘した」との事ですが、一般の韓国国民の間では島津義弘に対する評価は「好戦的」で「野獣のような」「残虐な」人物として紹介されているとの事。

この供養塔なども、最初に設置したあった場所から撤去されているようです。

したがって、現在の微妙な「日韓関係」の経緯を辿っている間は、これらの修復もままならないでしょう。

なお、この六地藏塔の島津宗本家による建立箇所は、島津修久様のこの「鹿児島支談」の文献によると、鹿児島県内では5か所あります。

歴史的にみると、帖佐平山城址が最初で、2番目がと我が永吉の南郷城争奪戦(それまでの桑波田一族と島津忠良、貴久親子との戦い)の建立、さらにその弔い合戦が行われた吉利原での供養塔(今では六地藏塔そのモノは存在しない)、南さつま市(加世田益山)の加世田別府城の戦い、さらに同じ南さつま市[加世田鴻巣馬場の六地藏塔であります。

鹿児島県以外では、の豊後の大友宗麟原塔や沖田躰の戦い(島津家久軍、有馬軍と龍造寺隆信軍との)の供養塔、さらに、三ノ山城の合戦(島津義久、義弘、歳久軍と伊東一属との戦い)、木崎原の合戦の六地藏塔、筑前の高橋紹運の供養、さらに、先に述べました「高野山の六地藏塔」(朝鮮の役)等であります。

ご存知でしょうが、「六地藏塔」とは、上から見ると六角に形付けられた石造であり、その六面体の側面には、地藏様(j未来、展望、絶望などの模様)が彫ってあります。

小生も豊後の大友宗麟原塔(六地藏塔)なども何度も訪れましたが、いつ行っても地元の方々が、丁寧にきれいに清掃されており、ビックリしています。

毎年、記念日には地元で供養祭を実施なさっているようです。

我々の地元の永吉の六地藏塔は現在、民地にあり、なかなか供養祭がなされていませんでしたが、十数年前から島津修久様からの助言と援助も頂き、以後、3年おきに永吉南郷会の恒例行事として供養祭を実施しています。

以上、今回のえびの地域の「探訪」に関しての、皆様の探求心の素晴らしさと「六地藏塔」について、述べさせていただきました。

2020年9月7日、 本田 哲郎

○大石 昇

六地藏塔についての詳しい説明をいただきました。

私も「木崎原古戦場跡」に行って六地藏塔を観た時すぐ本田氏の顔が目には浮かびシャッターを切りました。

○本田さんの指摘にあるように鬼島津について、NHKには韓国への気遣いがあるかもしれませんが韓国ドラマを放映しています。

期待の西郷どんの視聴率は、関東では12.7%で史上3番目の低さであったそうです。関西地区では15.8%、名古屋では13.9%、北部九州では17.2%。

最終回、鹿児島では30.0%。

=====西山 和宏

○大石ですこんにちは

いつもながらの詳しい歴史考察ありがとうございます。本当に勉強になります。

大河ドラマ(島津義弘)化の話もさることながら『六地藏塔』のいろいろは興味深いものがあります。

私も、木崎原古戦場跡で六地藏塔を観た時すぐ本田さんの顔が目には浮かびシャッターを切ってしまいました。

○永野和枝 昇

六地藏塔 日新公からの、伝えに感動しています☺ 義父が私に いろはのうた……覚えておくようにと。武田神社の境内で言ったこと(永野家)加世田出身。。。。

ここに来て島津家日新公から、義弘……

義弘を大河ドラマ化!?私も興味があります? 南洲遺影館100周年事業で原口先生と出水出身の作家が原口先生の方からさかんに、エールをおくっていました?最後のシンポジウムでした。出水出身の作家さん書き下ろしで、大河ドラマ実現するといいいですね♡

六地藏塔の事、本田先生解説で良く理解出来ました…ありがとうございました。歴史音痴な私ですが良くわかりました。

○島津日新齋教えによる「六地藏塔」の詳細を初めて知ることができました。

県内にある5ヶ所のうち「加世田鴻巣馬場」のものしか拝観したことはありませんでしたが、今回 大石くんの写真にあるように宮崎の「木崎原古戦場」を見学し六地藏塔も拝観することができました。近日中にブログにも書こうと思っています。

今回のご教示によってたくさんの六地藏塔の存在場所も知りことができましたので、少しづつでも見学に行きたいと思っています。

隈元 達雄

○7月25日

大石、隈元、森、永野各位 こんにちは。飯野城跡の歴訪、実りがあって良かったですね。さて予定している砂土原から西都原の歴訪の件ですが、24日、西都市でコロナウイルス感染を確認の発表があり、九州でも感染の広がり、事実上の第2波が懸念されます。

8月後半はまだ先ですが、どうでしょう、様子を見ませんか。

なお、先のメールで触れておりますが、佐土原城跡の情報、状況は、「佐土原歴史資料館」に寄り、収集したく、生憎、開館は土・日・祭で、月～金は閉館なので、土曜日実施を希望しますが如何でしょうか。

取り敢えず、上ご相談方ヨロシクです！ 中間

○了解

鹿児島はコロナ多い為県外(宮崎も)では用心されそう。ゆっくり9月に入っても構いません。土日の一泊ということですね。もう少しコロナの感染者が落ち着くのを見ましょう。

○中間さん初めまして 三年七組(女子)クラスの永野和枝です。

今回 島津一族の歴史探訪に参加出来ること、すごく楽しみにしています。ヨロシクお願いします😊

2年前の同窓会の二次会で、声高らかに高原列車を歌われたかたですよね👀 遠くから、拝見していました👀

お話は未だですよ👀 今度お逢いた時に...私も大石さんと、同じ意見です。 永野和枝

○出水筋④ 27日

高山彦九郎、学識深く、見目もよく弁舌さわやかにして多くの人々に愛されたようです

楽しみながら全国を遊説し、有名な土下座像で、その名を今の世に残したとは、本当に幸せな男であった。

野球、準決勝は何とかなりそうでしょう決勝戦は大変なようです

=====西山 和宏

○今日の「かごしま街道見聞記に「出水川」という始めて知る名力士が出てきたので、興味深く読みました。

それにしても、最初、高山彦九郎がこれほどの有名人でありながら野間之関を通るのに難渋したというのは信じられません。

高校野球の準決勝は雨のため第一試合が遅れて始まり、現在5回表 「神村学園」も「樟南高校」も0点です。

このあと、玉竜が「国分中央」と対戦します。

先日の準々決勝では勝って玉龍校歌が球場に流れました。 ◆♪◆*…*…◆♪◆*…*…◆

今日も聞きたいものです。 クマモト

○ご存じのように、その昔、江戸時代はもちろんのこと明治から大正、場所によっては昭和の初めまで物流は内航船と川が担っていました。

川上から米、薪炭、木材は船や筏で川下(河口)の港には運ばれました。

河口には産物と共に人とお金も集まりました。

船や筏で物産を運んできた人々の人数が少なかったころなら問屋に泊めてやることもあったでしょう。

しかし、繁盛にするにつれて人数が増えるとそうもいきません。

また、泊めて食事だけでは満足しない人もいます。

となれば、自然の流れとして、資本豊かな問屋が宿屋を営み、求めに応じて飯盛り女を置くようになりました全国の河口にはそのような宿屋が繁盛しました

その後、鉄道の発達によって、駅前旅館の時代が訪れましたがそれもやがて影が薄くなりました。

彦九郎が問屋・源右衛門宅に滞在と読んだとき、思い出したのは渡船場がある取手を舞台にした

長谷川伸の名作「一本刀土俵入り」の駒形茂兵衛と茶屋旅籠の蔦です

彦九郎は楽しい場所に流連したのでしょうか！

=====西山 和宏

○昨日行われた高校野球夏大会で母校玉龍は 19 年振りの準決勝進出でしたが惜しくも新聞紙面のような結果に終わりました。

八期 LINE では元高校球児の藤田さんと永野和枝さんがトークで賑やかでした。大石○

新聞切り抜きを天武で掲載します。 (高校野球玉龍一国分中央 塩田新知事今日から)

○紀行文 大石宛に已下の読書感想文が届きました。カットして掲載します。

司馬遼太郎のエッセイ・「街道をゆく」「肥薩のみち」のみ読了です。

大石くん、 貴兄から借りた標記の「肥薩のみち」やっと読み終えました。

それにしても、読書力が落ちたのを痛感しています。根気続かず！

(中略)

しかし、今回の「肥薩のみち」は最初の小見出しが「阿蘇と桜島」とあり、八代から司馬遼太郎が「日本でもっとも豊かな隠れ里だったといわれる人吉を通過して」薩摩の大臼盆地へというコースをたどっている。「要するに熊襲の国から隼人の国へゆくのである」ということから旅は始まっています。

(中略)

熊本空港から始まる街や自然の描写、土地名の由来、それぞれの歴史、土地の言葉、人物、宗教、それぞれの土地の人々の性格などなど知識が豊富でさすがに大作家はちがうなと、うなるばかりです。

「田原坂」では西南戦争が16日間にわたる長期戦争であったこと、薩摩軍が選んだ田原坂がいかに地球眼に優れていたかなど描かれていますね。また西南戦争で薩摩軍が一気に東京に入らず先ず加藤清正が築城した熊本城を目指したのかこれまで不思議に思っていたことを司馬遼太郎が見事に解き明かしてくれました。

「関ヶ原以来の薩摩隼人の伝統的目標は、肥後の熊本城だったのである」そうだったのか。熊本城は薩摩人にとって中央政権の象徴とされていたのですね。このことで私の今まで思っていたことは氷解しました。

秀吉も家康もいかに西の島津を恐れていたかも詳述べられています。

(中略)

「人吉の盆地」から先、これこそ今回一番読みたいところです。

ここの大名は相良氏である。その相良氏と島津氏の共通点は江戸幕府の中で最古の家系であり、両氏とも頼朝の鎌倉幕府から任命され明治維新まで670年の長きにわたり家系をつないでいる。相良氏は島津氏とは違って江戸期では二万二千石に過ぎない小藩であったが、内福だったという。それは幕府に田地を隠していたからだという。人吉盆地の奥には、外部から見えない小盆地があって、その収穫物は隠せおおせたという。しかし、昔から水害には苦しんでながら湖のようになったといわれ今回の水害が偶然ではないことがわかる。

「隼人」ではかごつま弁をよく勉強していると思うことでした。カタカナで書いてあるのを読むと自称かごつま弁達人と知っている私も読みながら思わず、ん と考えて全文を読んで納得という感じです。さぞかし他県人には難解だろうと改めて教えられました。

この感想文もどきも、また中途半端になってしまいましたが、同時にお借りした「つくられた戦い 庄内の乱」や「古墳時代の謎に迫る」「薩隅今昔歴史散策」など併読中で、ただいま頭の中はパニックを起こしています。(笑)



61AAD48D-9A61-4AA9-8AC7-2D551

左アイコンをクリックしてください。玉龍応援歌が聞ける。

○大石発

昨日行われた高校野球夏大会で母校玉龍は 19 年振りの準決勝進出でしたが惜しくも新聞紙面のような結果に終わりました。八期 LINE では元高校球児の藤田さんと永野和枝さんがトークで賑やかでした。

07月28日

準決勝まで行ったのは天晴 称賛に値します。

でも先行しながら逆転負けは惜しかったですね

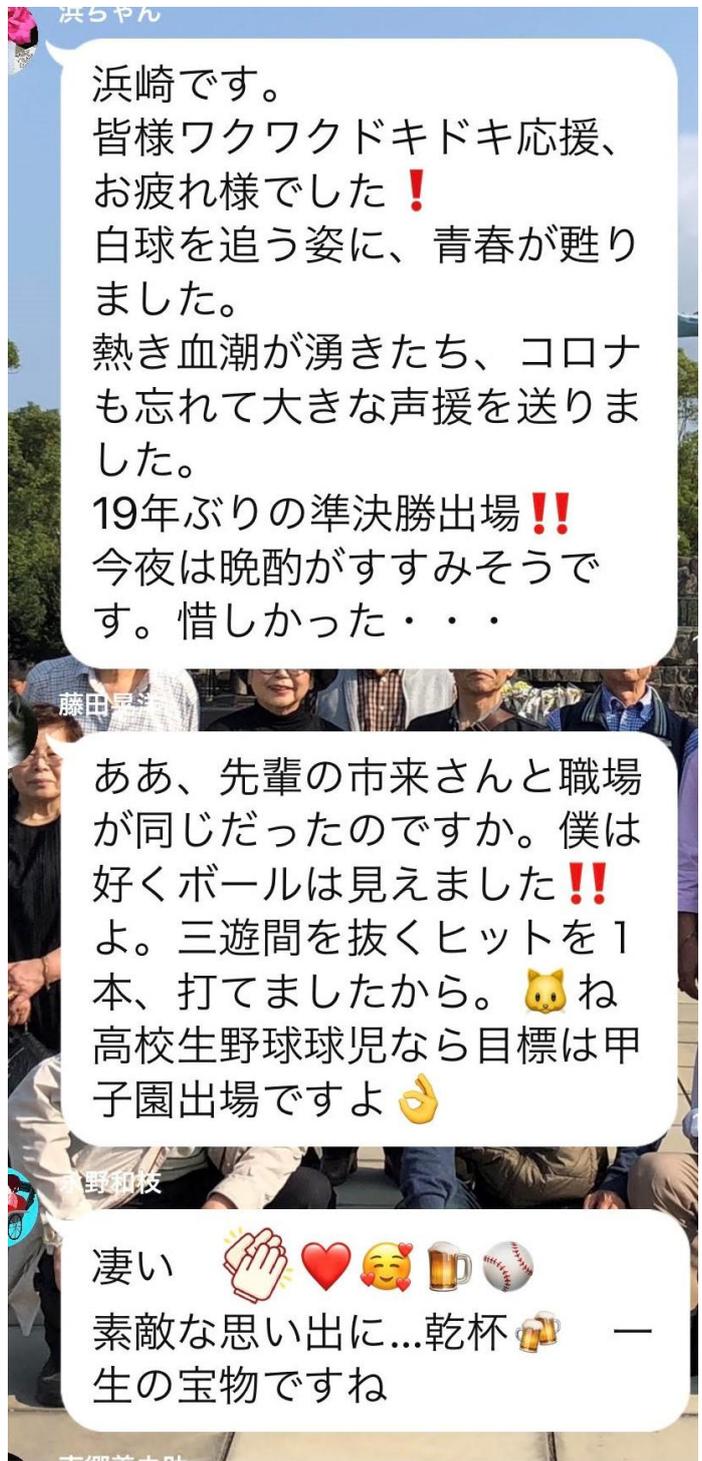
投手と捕手が、3番と4番、打線の強化が求められるところであったでしょう

マネジャーを入れて3年生が7人、かつてのキャプテン加治屋さんに、あの当時の部員の少ない理由を伺うとレギュラーになれないと、さっと退部して勉強に励んでいたとのことでした。

有望選手が残っているようですので、来季に期待を繋ぎましょう。

三田園さん、ご苦労さん、初の民間出身とはそれはそれなりに意義あることではありました。

=====西山 和宏



○